

# 第3回伊賀市非核平和推進中学生広島派遣団レポート

## ヒロシマを「遠い昔の話」にはしません

「憎しみ」や「悲しみ」の連鎖を、自分のところで断ち切る強さと優しさが必要です  
—文化や歴史の違いを超えて、お互いを認め合い、相手の気持ちや考えを「知るこゝろ」が大切です  
(このも代表「平和への誓い」から)

広島市・長崎市に人類史上初めて原子爆弾が投下されたあの夏の日から62年。

伊賀市では、8月5日から3日間、市内中学生の代表12人を広島市平和記念式典に派遣しました。参加した生徒は平和を願う世界中から集まった多くの方々と、忘れられない、忘れてはいけない「午前8時15分」に世界の平和を祈りました。

また、市民の皆さんから託された約124,000羽の折り鶴を、8月7日に原爆の子の像に大切に届けました。参加した生徒のレポートからヒロシマの様子をお伝えします。

○原爆ドームは、写真でしか見たことがありませんでした。初めて見て、改めて原爆の威力や、悲惨さを学ぶことができました。(浦田)  
○僕は、初めて原爆ドームを見て、戦争の痛々しさが分かりました。そして僕は戦争を二度とやってはいけないと思いました。(森岡)



青山中学校  
浦田 実来さん



島ヶ原中学校  
森岡 征矢さん



ひゅーまんフェスタ2007  
～ひと・あい・へいわ～  
会場にて。



7月16日に開催した「ひゅーまんフェスタ2007～ひと・あい・へいわ～」の会場で、市民の皆さんから託された折り鶴が広島派遣団に渡されました。

○資料館は、見るのを拒んでしまいたい内容のものばかりでした。しかし、私たちが同じ過ちをしないために残してあるのだと思いました。(長谷川)  
○平和記念資料館にあった原爆投下後の生々しい写真や物品を見て、戦争の辛さ、原爆の悲惨さ、そして平和の尊さについて改めて考えることができました。そして僕は、今できることを行動していきたいと思いました。(廣岡)

○中西さんのお話を聞いて、原爆の恐ろしさを改めて感じました。そして、そんなつらい思いを語ってくれた中西さんの気持ちを無駄にしないためにも、僕達自身の手で平和を築いていかなければならないと思いました。(赤塚)  
○中西さんの話を聞いて、心が痛む言葉がたくさんありました。原爆の悲惨さや、苦しみを感じ、命の大切さを感じました。(上原)



被爆体験講話



崇広中学校  
赤塚 央都さん



大山田中学校  
上原 梨鶴子さん



平和記念資料館



阿山中学校  
長谷川 路菜さん



府中中学校  
廣岡 甫明さん